



ちとせたい

学校だより 第10号
平成31年 1月15日
六ヶ所村立千歳平小学校
文責：教頭

時代が変わる 時代を変える 未来をつくる

校長 瀧田健太

今年の4月1日に、5月から始まる新しい年号が発表されるとのこと。はたしてどんな年号になるのでしょうか。巷(ちまた)では「安久」とか「幸成」とか「玉栄」とかいろいろ噂されていますが、なんになっても時代の変り目には特徴的なことが起きるものです。

1989年1月8日、昭和が終わり平成が始まりました。前年の10月あたりから昭和天皇の病状がテレビや新聞でそれとなく報道され、なんとなく重苦しい雰囲気時代を包んでいました。それとは裏腹に時代はバブル真っ最中。閉塞と解放が同居するある意味不安定な転換期でした。平成に入りバブル景気はますます加速し、ディスコだトレンドドラマだ、ブランド服だなどと、バブル崩壊なんて夢にも思わないような、江戸末期の「ええじゃないか」的なヒステリックな展開になっていたように思います。

しかし、絶対につぶれるはずがないと思われていた大手の証券会社が倒産し、大手の銀行もつぶれ、バブルは崩壊しました。平成はまさに経済冬の時代と言われるようになりました。教育界も「ゆとり教育」を導入したとたん、以前の詰め込み方式に方向を戻すなど、迷走を続けました。自然災害を見れば阪神・淡路大震災、東日本大震災など信じられないような大災害がありました。なんとなく暗いことしか思い浮かばないのが平成時代ですが、本当に暗い時代だったのでしょか。私はそう思いたくありません。仕事を通じて多くの子どもや保護者、同僚と出会い、たくさんの経験と挫折と希望の力を得たのもこの平成です。

どの時代にも、必死に生き、明日を夢見て今日の時を重ねているひたむきな人がいます。そんな市井(しせい)の人(※庶民)のささやかな、それでも確かな営みで「今」が積み重ねられ、時代が作られていったはずです。だから私はこの平成という時代がいとおしく素敵な時代だと思っています。

さて、今年度最後の学期が始まります。平成最後の学期ともいえます。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」といわれるように、3学期は思いのほか、あっという間に過ぎる学期です。子どもたちにはこの49日間に何をすべきかしっかりと目標を立てさせ、新しい時代への架け橋となる有意義な学期になるようがんばらせたいと思います。

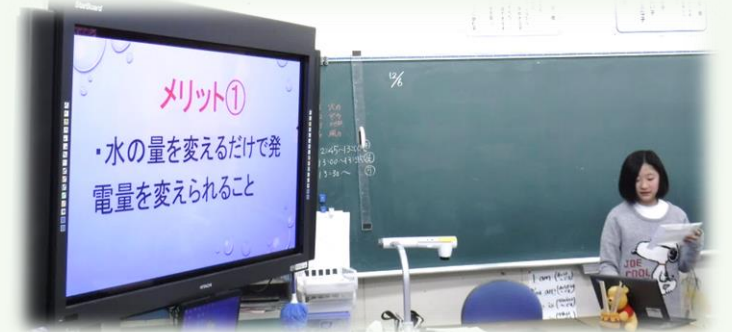
そのために、子どもたちに伝えたいことは「今やることに全力を尽くす」ということです。言い換えれば、今、当たり前のように流れている時間(命)を精一杯使うということです。今を大切に生きるということは、新しい時代、未来に咲く花の種に栄養を与えるということです。私たちの「今」はこれまでの「過去」の積み重ねであり、私たちの「未来」は「今」の一瞬、一瞬の積み重ねの先にあります。今を一生懸命生きること、今やることに全力を尽くすことで未来は変えられます。ひたむきに、誠実に、一生懸命がんばるその先に、新しい時代が待っています。子どもは未来そのものです。楽しみではありません。どうか激動の時を生き抜く子どもたちにこれまで以上のご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

みらい 未来をつくるために①【表現できる自分に】

先月16日。5年生では総合的な学習の時間の発表が行われていました。他の人の前で何かを表現することは、今後どんな職業に就こうと欠くことのできない力です。

夢は、何となく思うだけではかきません。自分から声に出したり目標を掲げて表現したりすることで、だんだん形になっていくものですね。

2019年の年初め、ご家庭でも「こんな仕事したい」という夢を聞いてあげてください。まだ何も考えていないようなら、「あんな仕事はどう？」と自分らしさを表現できる仕事を一緒に考えてみてください。親子、そして学校・地域と共有できる夢が、きっと見つかると思います。



みらい 未来をつくるために②【自分だけの力だけじゃなくていいんだよ】

先月14日、1年生の勉強に8人の「先生」がやってきました。様々な遊びを教えてくれるおじいさんやおばあさんたちです。あやとり、めんこ、おはじき... 昔の遊びは、人と人との関わりがあるからこそ楽しいものということを教えてくれます。積極的にコミュニケーションをとることは、大きくなって仕事をしようになった時の練習です。遊んでいるように見えて、実は真剣な勉強なのです。みんなの力を借りて、どんどん大きくなあれ!



↑ あやとり... わからないところは積極的に教えてもらいましょう。



↑ めんこ... 単純なルールだけど奥が深い... でも、みんな楽しめます。

終わった → あとは、もちろん感謝! **ありがとう**とごめんなさいは、社会人としてのたしなみですね。みんなの顔もニコニコです。いい勉強ができた証拠です。



みらい 未来をつくるために③【自分の学力を知る】

今号では、裏面に、全国や青森県の学力学習状況調査の結果についてまとめました。これからの学校運営や、子どもたちへの指導・支援に役立っているものです。どうぞご覧ください。

■ 全国学力学習状況調査(4/17:6年)から <国・算・理>

国語A(知識) 全体正答率		
本校	81.0	◎全国比 114.6%
県	75.0	○青森県比 108.0%
全国	70.7	

国語A 領域正答率	本校	県	全国
話す・聞く	91.7	90.6	90.8
書くこと	66.7	74.7	73.8
読むこと	95.8	75.4	74.0
言語	77.1	72.3	67.0

国語B(活用) 全体正答率		
本校	60.0	○全国比 109.7%
県	57.0	○青森県比 105.3%
全国	54.7	

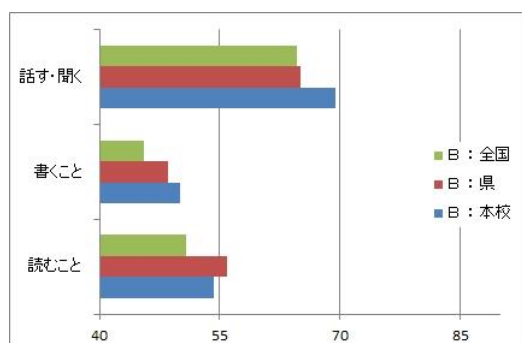
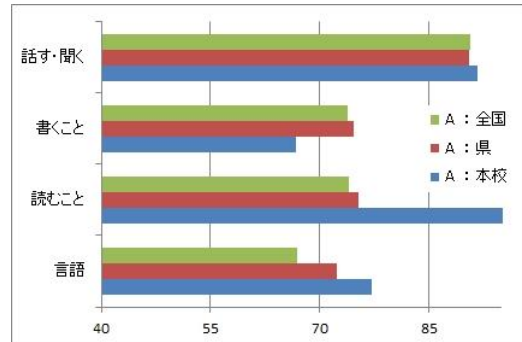
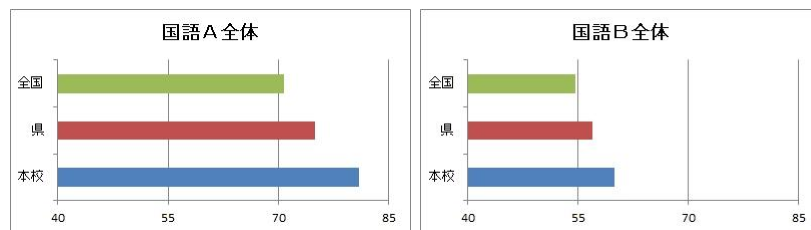
国語B 領域正答率	本校	県	全国
話す・聞く	69.4	65.1	64.6
書くこと	50.0	48.6	45.6
読むこと	54.2	55.9	50.8

算数A(知識) 全体正答率		
本校	72.0	◎全国比 113.4%
県	65.0	◎青森県比 110.8%
全国	63.5	

算数A 領域正答率	本校	県	全国
数と計算	61.7	61.7	62.3
量と測定	85.4	74.8	72.7
図形	72.2	58.7	56.9
数量関係	63.3	61.2	60.1

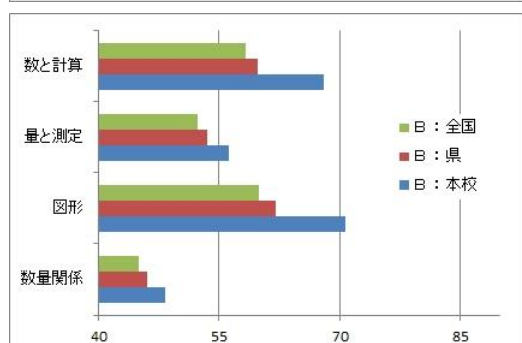
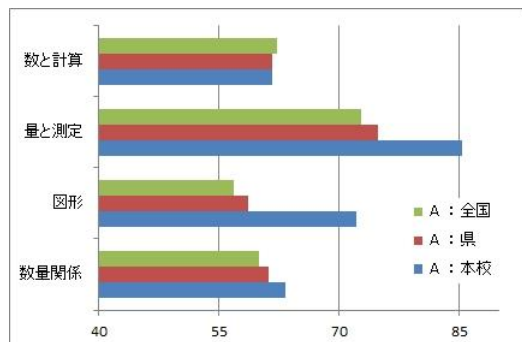
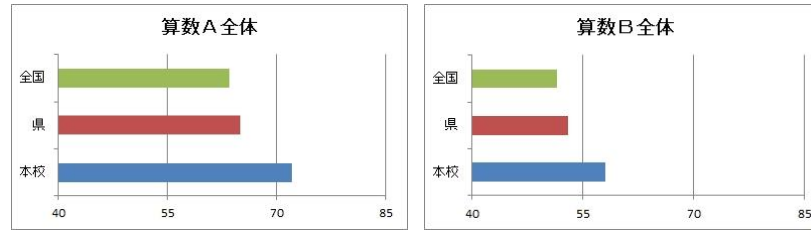
算数B(活用) 全体正答率		
本校	58.0	◎全国比 112.6%
県	53.0	○青森県比 109.4%
全国	51.5	

算数B 領域正答率	本校	県	全国
数と計算	68.1	59.8	58.4
量と測定	56.3	53.5	52.4
図形	70.8	62.0	59.9
数量関係	48.3	46.0	45.1



※ 「～比」とは、全国や県の平均値を100とした時の本校の割合です

○ A問題(知識) B問題(活用)問題とも、多くの領域で県比・全国比を上回り、学習の定着が図られていました。
△ Aの「書く」がやや低くなっているため、業間の時間等を活用し、漢字などの習熟に努めてきました。

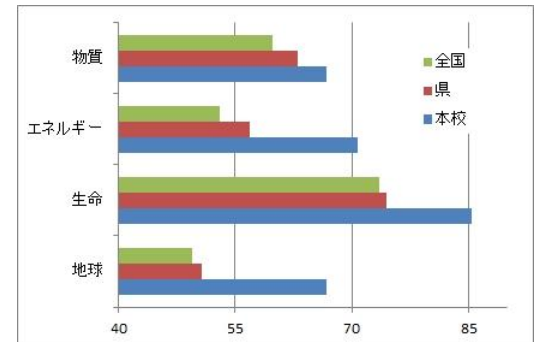
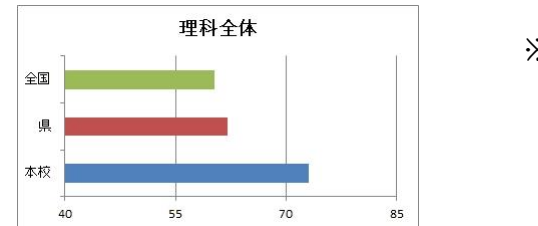


○ A問題では「図形」が特によく、形を定量的に捉えて、題意に合った回答を引き出せていました。
○ 活用を問う問題でも「図形」分野で知識を十分に活かした回答がよかった他、「数と計算」分野でも既習の計算方法を組み合わせたりする工夫ができ、内容の定着が進んでいました。

理科(知識・活用) 全体正答率		
本校	73.0	◎全国比 121.1%
県	62.0	◎青森県比 117.7%
全国	60.3	

理科 領域正答率	本校	県	全国
物質	66.7	63.1	59.8
エネルギー	70.8	56.9	53.1
生命	85.4	74.5	73.6
地球	66.7	50.7	49.5

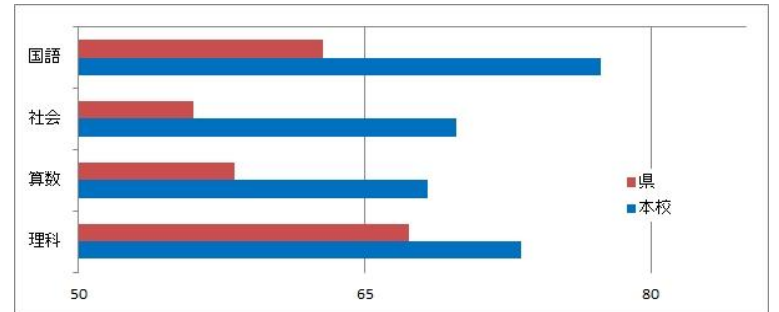
○ どの分野もよい成績でした。特に「エネルギー」「地球」では的確に問題内容を判断した回答が見られました。また、小問ごとに分析すると、「知識」に関する問題よりも「活用」に関する問題の方がよりよいことが分かり、ただ暗記して機械的に答えているのではなく、持っている知識をうまく使って題意に沿う回答をしようとしていることが分かります。国・算・理にとどまらず、他の教科等でも力を発揮できるように、指導に努めてきました。



※ 理科は、毎年の実施ではなく、数年に一度行われます。また、実施内容も国語や算数のようにA問題(知識) B問題(活用)と分けるのではなく、知識・活用をまとめて問う形式になっているため、総合力が重視される調査です。

■ 青森県学力学習状況調査(8/29:5年)から <国・社・算・理>

	本校 正答率	県 正答率	県比 (%)
国語	60.7	55.2	123.3
社会	69.8	64.0	124.6
算数	58.0	52.7	117.3
理科	63.7	60.1	108.8



○ 全教科とも、県平均の正答率との比較で、大きく上回りました。

【国語：部分】

気持ちの読み取りはよいのですが、「表現」することがやや低く出ています。文章での表現に、よりいっそうの工夫が求められています。

【社会：部分】

資料の読み取りで、土地の高低や面積のイメージはできているものの「断面図」のように、日常生活にあまり出てこないものについて弱点が見られました。学級で、くり返しの復習を行いました。

【算数：部分】

各種図形の性質や構成(頂点・辺・角...)については十分な理解があるものの、展開図の「重なり」のように、複合的な要素をもつ問題に慣れていないという結果でした。くり返しの取組が必要です。

【理科：部分】

「磁化を確かめる方法」や「虫眼鏡の使用法」でやや低い結果となりました。実験・観察の指導をよりいっそうに行い、前学年での内容を次の学年の指導と関連付けていくよう工夫していきます。

※ 県、全国、いずれの調査も、子どもたちはたいへんよくがんばりました。そして、これらの調査が実施された後も、がんばりを続けています。目をかけ、声をかけていくほど学力が向上する、というデータも報告されています。子どもたちのがんばりは、お家の方に支えられているものだと実感しております。今後は、自分の力を知り、中学校・高校の学習そして自分の夢へとつなげる学習になるよう引き続き支援していきます。